



Generate Collection

L7: Entry 1 of 3

File: JPAB

Jan 28, 1987

PUB-NO: JP362019505A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 62019505 A ✓

TITLE: ATTRACTING FEED POISON FOR COCKROACH

PUBN-DATE: January 28, 1987

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SETO, YASUNORI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KK EIKEN

APPL-NO: JP60159911

APPL-DATE: July 18, 1985

INT-CL (IPC): A01N 65/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain an attracting feed poison for cockroach having improved insecticidal effect, by adding SENKYU (rhizome of Cnidium officinale) known as a Chinese drug as an attractant to a feed poison containing an insecticide such as trichlorfon and boric acid.

CONSTITUTION: The objective attractant feed poison for cockroach is produced by adding trichlorfon (3∼5wt% based on the whole agent) or boric acid (10∼20wt%) to a feed composed mainly of starch, and adding 0.1∼2wt% SENKYU powder to the obtained feed poison. The addition of SENKYU powder to the food poison can be carried out by kneading the above three components with water in the form of paste, or forming and drying the mixture to granular form. As an alternative method, SENKYU powder is scattered to the granular feed poison composed of a mixture of a feed and an insecticide.

COPYRIGHT: (C)1987,JPO&Japio

End of Result Set

Generate Collection

L21: Entry 2 of 2

File: DWPI

Jan 28, 1987

DERWENT-ACC-NO: 1987-067607

DERWENT-WEEK: 198710

COPYRIGHT 2003 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cockroach attracting and controlling compsn. - contains food starch, boric acid of trichlorfon and cinidium as attractant

PATENT-ASSIGNEE: YG EIKEN (EIKEN)

PRIORITY-DATA: 1985JP-0159911 (July 18, 1985)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<u>JP 62019505 A</u>	January 28, 1987		003	
JP 87061563 B	December 22, 1987		000	

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 62019505A	July 18, 1985	1985JP-0159911	

INT-CL (IPC): A01N 57/20; A01N 59/14; A01N 65/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 62019505A

BASIC-ABSTRACT:

Compsns. contain food starch, insectididal boric acid or trichlorfon and 0.1-2 wt.% cinidium as attractant.

Starch is e.g. wheat starch, potato starch, etc., opt. with small amt. of molasses or rice bran added. The content of trichlorfon or boric acid is 2-20 wt.% based on the compsn. The compsn. can be formulated as paste or granules. The paste is obtd. by kneading food, insecticide and cinidium powder in presence of water.

Specifically claimed are the compsn. in which the content of trichlorfon is 3-5 wt.% and the compsn. in which the content of boric acid is 10-20 wt.%.

ADVANTAGE - Compsns. have cockroach attracting effect, and are used to control cockroaches.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 62019505A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

DERWENT-CLASS: C03

CPI-CODES: C04-A07F2; C04-C02B; C05-B01G; C05-B02C; C12-N02;
C12-N03;

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-19505

⑤ Int. Cl.⁴ 識別記号 庁内整理番号 ④ 公開 昭和62年(1987)1月28日
A 01 N 65/00 7144-4H
/(A 01 N 65/00
59:14) 7144-4H 審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 ゴキブリ誘引食餌毒剤

⑭ 特 願 昭60-159911

⑮ 出 願 昭60(1985)7月18日

⑯ 発 明 者 瀬 戸 康 伯 竜野市揖保町西構151

⑰ 出 願 人 有 限 会 社 栄 研 竜野市竜野町富永779

⑱ 代 理 人 弁 理 士 坂 野 威 夫 外1名

明 細 書

1 発明の名称

ゴキブリ誘引食餌毒剤

2 特許請求の範囲

〔1〕デンプンを主体とする食餌と、トリクロルホンまたはホウ酸の殺虫剤とからなる食餌毒剤に、全量に対して0.1~2重量%のセンキウ粉末を付加してなるゴキブリ誘引食餌毒剤。

〔2〕トリクロルホンが全量に対して3~5重量%である特許請求の範囲第1項に記載のゴキブリ誘引食餌毒剤。

〔3〕ホウ酸が全量に対して1.0~2.0重量%である特許請求の範囲第1項に記載のゴキブリ誘引食餌毒剤。

〔4〕食餌と殺虫剤とセンキウ粉末とが混合されている特許請求の範囲第1項ないし第3項のいずれかに記載のゴキブリ誘引食餌毒剤。

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明はゴキブリの死虫効果が大い

り誘引食餌毒剤に関するものである。

(従来技術)

近年、住宅の近代化に伴って、季節の変化があつても住居内の温湿度は余り変化せず、ゴキブリの生息条件に適合するようになり、季節を問わずゴキブリが多く繁殖するようになった。ゴキブリを駆除するために、捕獲器、食餌毒剤、くん煙剤、スプレー液などが使用されているが、くん煙剤は一般の住宅では室内の空気が汚れるので好ましくない。スプレー液は眼前に現われないゴキブリを殺虫することはできず根絶するには至らない。捕獲器はゴキブリから分泌されるフェロモンというホルモン物質を捕獲器内に塗布、放置してゴキブリを誘引し、捕獲器内に入ったゴキブリが外へ逃げられないようにして捕獲するものであるが、捕獲されたゴキブリが直ぐには死なないので、その処理に不快感を伴う。近時、ゴキブリの殺虫剤としてトリクロルホン($C_6H_5Cl_3O_3P$)やホウ酸が特に優れた殺虫効果を有することが判り、これらの殺虫剤をデンプンを主体とする食餌に混合した

ゴキブリ食餌毒剤が広く使われるようになった。

一方、センキウ(川芎)は、多年生草本またはその根茎を熱湯、水蒸気などで蒸したのち乾燥したもので芳香と辛味を有し、この粉末は漢方薬の鎮静剤として使用されている。センキウにはリグスチライド、ブチリデネフタライド、ブチルフアライド、ネオクニジライド、クニジライド、センキウノライドなどの揮発成分が微量含まれていることが知られているが、ゴキブリ駆除に対する作用は未だ試みられていなかった。

(解決しようとする問題点)

上記トリクロロホンやホウ酸などの殺虫剤を含有した食餌毒剤は、ゴキブリの死虫効果が優れているが、ゴキブリが食餌毒剤に集まらなければその効果はあがりにくい。本発明者は、従来漢方薬として使用されているセンキウがゴキブリに対する誘引効果に優れていることを知り、従来の食餌毒剤にセンキウ粉末を付加することによつてゴキブリの死虫効果を向上しようとするものである。

して0.1~2重量%であり、0.1重量%未満ではゴキブリに対する誘引効果が殆んどなく、また2重量%を越えてもそれほど効果が向上するものではない。

センキウ粉末を食餌毒剤に付加するには、食餌、殺虫剤およびセンキウ粉末を水で混練してペースト状とするか、または成型、乾燥して粒状とする。さらに食餌と殺虫剤とを混合した粒状の食餌毒剤にセンキウ粉末を撒布してもよい。

この発明の誘引食餌毒剤は、ゴキブリの出役しそうな場所にばらまいて使用することができるのみならず、捕獲器内に粒状で放置するか、ペースト状に塗布すれば、捕獲器に入ったゴキブリを速やかに殺虫することができる。

(作用)

センキウ粉末の香氣にはゴキブリを誘引する作用があるため、ゴキブリが食餌毒剤に集まり、死虫効果が向上する。

(実施例)

小麦デンプン50重量部、ジャガイモデンプン

(問題点を解決するための手段)

この発明は、デンプンを主体とする食餌と、トリクロロホンまたはホウ酸の殺虫剤とからなる食餌毒剤に、全量に対して0.1~2重量%のセンキウ粉末を付加してなるゴキブリ誘引食餌毒剤である。

食餌はデンプンを主体とするもので、デンプンとしては、小麦デンプン、ジャガイモデンプンなどの従来公知のものであり、必要に応じて少量の蜂蜜、米糠などが混合される。

上記食餌に配合される殺虫剤は、トリクロロホンまたはホウ酸のいずれかであり、その配合量はトリクロロホンでは2~5重量%、ホウ酸では10~20重量%が好ましい。配合量が上限値未満の場合は死虫効果が低下し、上限値より多くしても多くしたただけの効果があがらない。なお、ホウ酸は従来からゴキブリの忌避剤として知られていたが、毒死効果はない。しかしホウ酸には殺虫効果がある。

センキウ粉末の配合量は、食餌毒剤全量に対

47重量部、トリクロロホン3重量部に対してセンキウ粉末0.2重量部を混合して径1.8mmの粒状の誘引食餌毒剤(A)を成型した。また上記センキウ粉末を混合しない上記同様の粒状食餌毒剤(イ)を成型した。ゴキブリの死虫効果試験は、縦、横1m、高さ0.5mの方形木箱の底の四隅に6×8×0.5cmの平皿を配置し、一方の対角線上の平皿に食餌毒剤5gをいれ、他方の対角線上の平皿に水5mlをいれ、かつ木箱内にチャンパネゴキブリ20匹を投入したのち木箱上面をガラス板で蓋をし、室温で放置してゴキブリの死虫数を12時間毎に観察し、その結果を下記表および図面のグラフに示した。なお、下記表中の(B)は粒状食餌毒剤(イ)に、センキウ粉末0.01gを撒布したものである。

(以下空白)

表

時 間(時)		12	24	36	48	60	72
(A)	死虫数	3	6	12	17	20	—
	%	15	30	60	85	100	—
(B)	死虫数	2	5	10	15	20	—
	%	10	25	50	75	100	—
(イ)	死虫数	0	2	5	10	15	20
	%	0	10	25	50	75	100

上記表および図面のグラフに示すように、(A)および(B)は12時間後にはゴキブリの10~15%が死に、60時間では100%死んでいるが、センキュリ粉末を付加しない従来の(イ)は、12時間では一匹も死んでおらず72時間でやつと全部が死んだ。また(B)は(A)に比べて若干死虫効果が劣るが(イ)に比べてはるかに向上される。

(発明の効果)

この発明のゴキブリ誘引食餌毒剤は、従来のものに比べてゴキブリが早く死に、死虫効果が優れている。

4 図面の簡単な説明

図面はこの発明のゴキブリ誘引食餌毒剤と従来の食餌毒剤との時間の経過による死虫率を示したグラフである。

特 許 出 願 人 有 限 会 社 栄 研

代 理 人 弁 理 士 坂 野 威 夫

" " 吉 田 了 可

